

「シニア女性が担い手となる
交流サロン作り」に向けた

事業開発 中間報告書



発行：♡ 男女共同参画センター横浜南（フォーラム南太田）

男女共同参画センター横浜南 館長 常光明子

2017年1月の横浜市の高齢者人口(65歳以上)は約89万人。1990年から2010年までの20年間の統計では高齢夫婦のみの世帯が3.3倍に、高齢単身世帯が4.2倍に増という報告もあります。ここに年代別の男女別人口を重ねてみると、これからの横浜では独り暮らしのシニア女性の世帯数が右肩上がりとなる様相がうかがわれます。(*)

現在、男女共同参画センター横浜南のおもな利用者層は60代以上です。地域課題として要介護・要支援の高齢者像がクローズアップされる一方で、私たちは日々の利用者の活動から、地域には元気に友と交わり、自分なりに生きがいを創造している高齢者も多くいらっしゃることを実感しています。とくに女性たちは、日々の暮らしの延長に様々な楽しみを見出して活動されています。

和布のリメイクでセンスの光る小物を次々に手作りしている方。新聞紙や広告チラシで可愛い小箱やペーパーバッグを作っている方。童謡コーラスやダンスサークルも盛んですし、趣味の集まりだけでなく、地域のボランティアや民生委員、老人クラブの役員などを担って忙しい日々を過ごされています。

とはいえ、個々にお話を聴いてみると、今は大丈夫でも、ふとしたきっかけで弱ってしまうかも・・・という心細さも伝わってきます。

「長年、介護して家族を看取ったんだから。せめて3年くらいは元気に自分の時間を過ごしたいと思っているのよ」「外出先の筆頭は医者。どこかしら不自由があって当たり前」「お友達が減ってきて、やっぱり寂しいときもあるわ」そんなふうにおっしゃる方も多く、高齢期の孤立が案じられます。

独り暮らしのシニア女性たちが、引きこもらないように出かける機会をつくろう。出会いが広がる場をつくろう。どんなしかけがあれば、心地よい居場所ができるだろう？

不安を分かち合ったり、ほどよい刺激をしあったり、緩やかな見守り合いの場はどうだろう？ おもしろいことを始めたら「天の岩戸」が開くように人が集まってくるかも！

中小企業診断士の為崎緑先生、地元で活動を続ける市民グループ、地域の知恵袋のような素敵なシニア女性たち、多様な見識を持つ皆様のご協力を得て、私たちは「シニア女性が担い手となる地域の安心・安全づくり、交流づくり」を事業化しようと考えました。そしてシニア女性の活躍の可能性を拓くことを目指して、検討を続けています。

酸いも甘いもかみ分けたシニア女性の笑顔。高齢化が進む横浜で、その笑顔はなによりの地域の魅力・活力につながるでしょう。今後の展開にもご支援ご賛同をお願い申し上げます。

(*) 第5期横浜市高齢者保健福祉計画「将来の姿」/横浜市統計ポータルサイト平成29年1月1日より





目次



● 事例検討会	1
● 手仕事交流サロンの検討	4
● 「おしゃべりハンドメイドの会」の試行	5
● 座談会「おしゃべりハンドメイドの会」(半年間6回)を振り返って	8
● 座談会のまとめに代えて～「世話人力」を考えてみました	12
● アドバイザーの提言「シニア女性の活躍の場づくりを目指して」	13
● おわりに～2年目の取組に向けて	14

事例検討会の前に…

「シニア女性が担い手となる交流サロンづくり」の検討にあたっては、具体的な事業の軸をどのように設けるかが、アドバイザーをお願いした為崎緑さんと事務局での最初の議論でした。

漫然と集まっておしゃべりしましょうというのでは続かない。参加の動機づけとなるポイントがあったほうがよい。かといって、講座型の集まりでは目的がはっきりしすぎて、潜在するニーズがみえにくい。教える・教わるという関係性のなかでは運営の幅が狭まってしまうのではないかと。といったような点をふまえ、まず重視したのは①グループ活動等に消極的に過ごしてきた個人でも参加してみようと思えること ②フリーな関係のなかでゆるやかな交流を継続できること。

取っかかりとして「手仕事」に着目し、手仕事を通じた場づくりを行っている先行事例に学ぶこととし、その段階から事務局だけではなく、地域で手仕事や仲間づくりに取り組んでいる方たちにも参加を呼びかけました。

事例検討会

男女共同参画センター横浜南（フォーラム南太田）を拠点・会場とする「シニア女性が担い手となる交流サロン作り」にむけて、地域のなかで高齢者支援や手仕事に取り組む団体、個人に声をかけ、2回の検討会をもちました。検討の第一歩として、地域でシニア女性がいきいきと参加している先行事例を聞きました。

検討会出席メンバー

▼アドバイザー

為崎 緑さん（中小企業診断士）

▼団体に活動する方

赤岡 清子さん（ファイバーリサイクルネットワーク代表）

大木 麗子さん（ファイバーリサイクルネットワーク リメイク担当）

土屋 真美子さん（特定非営利活動法人アクションポート横浜アドバイザー）

森 博昭さん（横浜市睦地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーター、第3期フォーラム南太田市民運営協議会委員）

西村 末子さん（こども食堂「わいわい食堂」メンバー）

吉田 麗子さん（異世代交流食堂「むつみ茶屋」代表）

▼個人

菊地 碓子さん（フォーラム南太田マルシェ手作り市出店者）

本多 睦子さん（第2期フォーラム南太田市民運営協議会委員）

▼男女共同参画センター横浜南 職員〔事務局〕

常光 明子（男女共同参画センター横浜南 館長）

小園 弥生（同 管理事業課長）

小田 美子（同 管理事業課職員）

菱 知子（同 管理事業課職員）



第1回検討会 ミシンの音がするカフェ「いのちの木」の事例に学ぶ

横浜市都筑区にあるコミュニティカフェ「いのちの木」では、地域で暮らすシニア女性たちが「おばあちゃんの編み物会社」で活躍しています。編み物会社の成り立ちと現状について、お話を聞きました。

✦ 実施日 2016年3月17日(木)

✦ ゲスト 岩永敏朗さん(NPO法人五つのパン理事、「いのちの木」主宰)



✦ 報告内容

子ども世代からの「呼び寄せ」もあって中高年世代の転入が多い横浜北部地域で、地縁のうすいシニア女性たちが手仕事を通して交流できる場を、との思いで始まったカフェ「いのちの木」。人気雑誌とのコラボ企画で売り出したニット製クラッチバッグが大人気となり、「ゆるやかなコミュニティの場」は一気に「商品制作の場」となりました。

現場スタッフは急激な変化にとまどうシニア女性たちとていねいに向き合い、その対話の中から新ブランド『ドルカス』が生まれたそうです。「『ドルカス』はできることをできる人がやります。“商品の販売ありき”を優先すると現場が息苦しくなることも。ゆるやかに、お互いが“補い合う関係”を大切にしていきたい」と岩永さん。

✦ 出席者の声

- ・手芸が好きなので「ミシンの音がするカフェ」と聞くと憧れる。でも以前仕事で指示を受けて手芸をしていた時には楽しいと感じられなかった。やはり今なら「やらなくては」ではなく「やりたいことをやりたい時に」したい。
- ・高齢になっても支援に頼るだけではなく、自分で色々なことをやって、人と関わりたい。
- ・自分が以前から関わっている活動もお金云々ではない。しかしお金が続かないと運営できないのも事実。好きなことが収入になっていくには、どうしたらよいのだろうか？
- ・「作りたいものを作る」のが生きがいになると思う。そしてそれが売れたらなおうれしい。

事例に学んだこと

世代を超えた地域のつながりをいかし、ひとりひとりが手も頭も心も動かせる場づくり、ものづくりに取り組む「いのちの木」。生み出された作品も作り手のぬくもりが伝わり魅力的でした。とはいえ、岩永さんの経験から「居場所づくり」と「商品開発や品質の維持管理」を同時にすすめることがいかに難しいか。関わる人の意識の持ち方の違いや、場を安全に維持するスタッフの黒子役割の重要さが理解できました。

参加者が意欲や楽しさをもつためには「やらされてる」ではなく「やりたい」気持ちを動かすこと。そして、その意欲や楽しさを「見える化」し、発信することで輪をひろげていくことが大切と考えました。



「ドルカス」の商品。若い母親とシニア女性たちがデザインなど何度も話し合い、試作を重ねて生まれる。

第2回検討会 「港南台タウンカフェ」小箱ショップの事例に学ぶ

横浜市港南区の「港南台タウンカフェ」（以下タウンカフェ）では小箱ショップ（レンタルボックス）が人と人をつなぎ、小さなビジネスの場ともなっています。ここで人気の布バッグを作る70歳代の石川さんと、石川さんのようなシニア女性の作家を支えるスタッフの田中さんに、人のつながり方と販売の関係等について聞きました。

- ＊ **実施日** 2016年7月14日（木）
- ＊ **ゲスト** 石川三代子さん（布バッグ作家、港南台タウンカフェ小箱オーナー）
田中久子さん（港南台タウンカフェスタッフ 小箱ショップ担当）

＊ 報告内容

石川さんはもともと手仕事で生計を立てていた経験の持ち主。今もこだわっているのは、「使う人に本当に役立つバッグを作るため、お客さんの声を聞いてデザインに活かす」こと。考案して作り出すことが大好きで、布を買ってくるとどんなバッグを作ろうかとワクワクして眠れないそうです。タウンカフェには週3回ほど通い、おしゃべりも楽しむなど生活の一部になっていると話されました。

スタッフの田中さんが大切にしているのは「買いに来た人に、小箱ショップの作品がどんな人によってどう作られているかを伝える」こと。作品に新たな価値がプラスされ、購入につながるポイントです。そのためには、各オーナーとの交流も欠かせないとのことでした。

＊ 出席者の声

- ・私も人が喜んでくれるものを作るのが楽しみ。おしゃべりすると自分も健康になる、病気も治るような気持ちになる。
- ・小さなマルシェで販売したときに、お客さんから「作り方を教えて」と言われた。そんなつながりができることもある。
- ・作品を作り続けていると出口やゴールがほしくなる。人に教えることは無理だけど作るだけではない「何か」があるといい。
- ・「社会参加・貢献している」と思えるのがやりがいになる。
- ・人に作品を見せられる、いっしょに手仕事ができる場を作っていくといいのでは。オープンな場で「自分も加われるかも」「なにか作れるかも」と思ってもらえるような雰囲気が良い。「これを作りましょう」という講習会ではなくもう少し自由な感じがいいと思う。

事例に学んだこと

港南台タウンカフェの小箱ショップは、個性あふれる品々が詰まった各ショップの棚が木のぬくもりをいかした空間に溶け込んで、そこにいるだけでも楽しい場になっています。数あるショップのなかでも人気の高い布バッグ作家石川さんの経験を聴き、手仕事を続ける意味として「人に喜ばれることがやりがい」「趣味にとどめず販売してみることで、様々な反応を受け、作品への意欲や向上心が高まる」ということを実感しました。

田中さんの経験からは、場のなかで顔の見える人ともものが交流を生み出すことや、タウンカフェに集う人のニーズをどう拾い、つなぐか、交流の支え手の役割の重要さを感じました。

検討会参加者からは、私たちも具体的な活動をやり始めましょうと声が上がリ、「場」を開いて、ものづくりのサロンを試行する方向にまとまりました。



「数日カフェに顔を出さないとみんなが気にかけてくれる」「手を動かすと元気になる。あと10年は作りたい」と石川さん（右）。

手仕事交流サロンの検討

検討会での事例や、出席者からの意見を聞いた後、為崎アドバイザーと事務局で、男女共同参画センターでどのような場をつくっていくのか、次の二点を検討しました。

(1) どんな場にするのか？

- ① 初めての人も気軽にふらっと、予約なしで来られる出入り自由なオープンな場にしたい。
- ② 出かける場がほしい、人に会いたいと思いつつも一人暮らしで閉じこもりがちな女性が”出かけてきてよかった”と思って帰れるような場にしたい。
- ③ 「教える」「教わる」の関係ではない、手仕事を介した「なかまの場」にしたい。
- ④ 作品の完成を目的にせず、手を動かしながらおしゃべりを楽しめる。でもささやかでも、作って持ち帰れるものがあたらうれしい。
- ⑤ 日頃の肩の荷がちょっとおろせる場にしたい。
- ⑥ 手ほどきしながら場を見守る「世話人」を、参加者と同世代の女性にお願いしたい。

予約不要で、簡単な手作りを楽しむサロンを定期的で開催して、どんな人が集まってくださるか、試みることにしました。

(2) どうやって知って、来てもらうのか？

参加してほしいのはシニア世代の女性。どんな広報が有効かを考えました。

- ・案内チラシ・・・紙媒体を中心に、館内配架のほか近隣の公共掲示板等でお知らせ
- ・新聞折込チラシ・・・新聞購読層に向け、近隣エリア1500戸弱への配布
- ・館内展示・・・日頃の来館者の口コミに期待して、手作り品の見本を展示してアピール
- ・SNS・・・若い世代から、親や祖母に伝えてもらえるように



案内チラシ



SNS



館内展示



「おしゃべりハンドメイドの会」の試行



2回の検討会を経て2016年9月より、手仕事とおしゃべりを楽しむ「おしゃべりハンドメイドの会」と名前をつけて月に一度、スタートしました。すでに定着しているイベント「フォーラム南太田マルシェ」※と同時開催としました。

※毎月第3金曜に行っている野菜市と手作り市

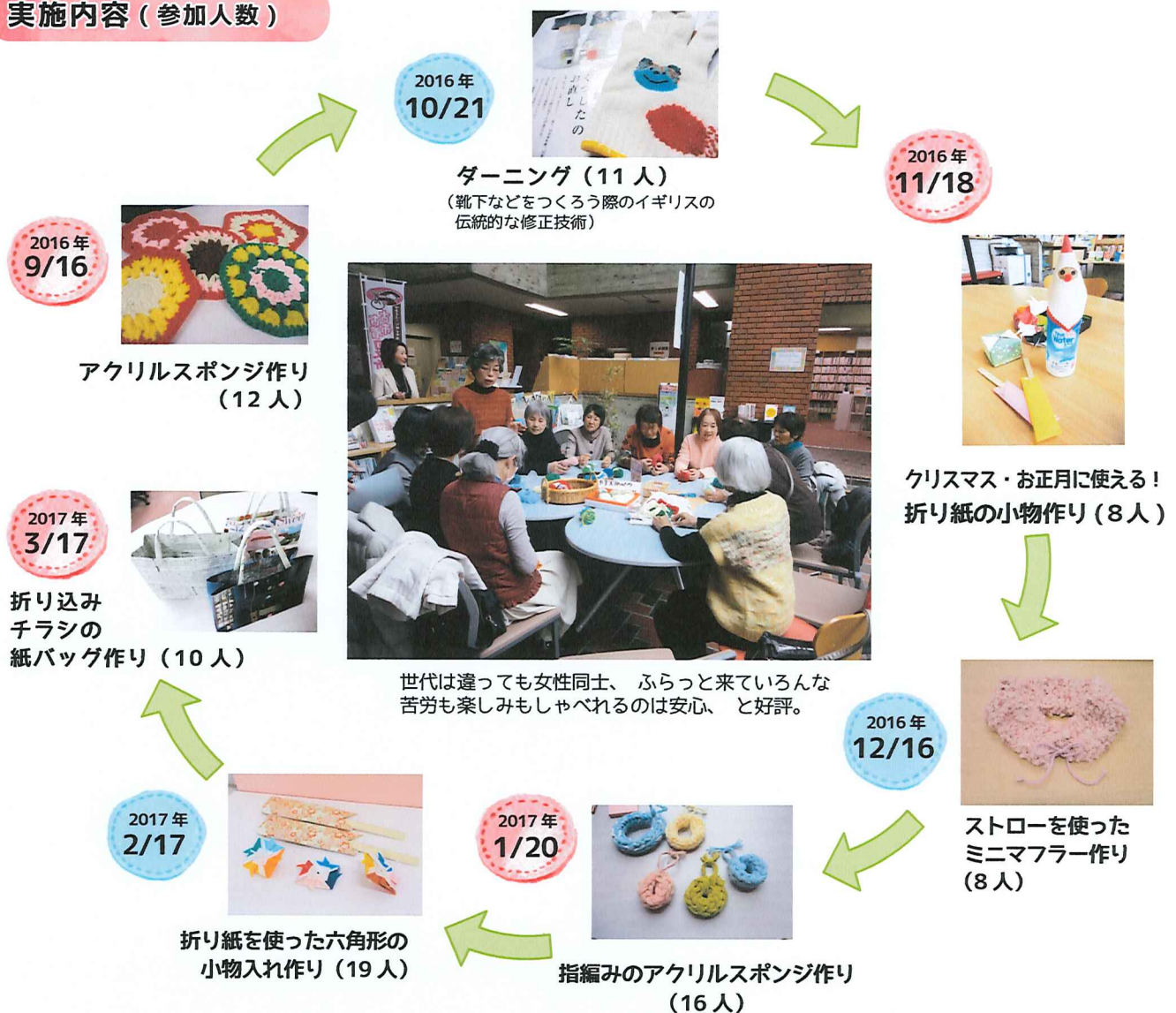
開催概要

実施日時 毎月第3金曜日 13:00～15:00
会場 フォーラム南太田1階 交流ラウンジ
参加費 300円 (材料費込、めぐカフェドリンク券つき)
世話人 菊地碓子さん、本多睦子さん (2016年9月～2017年3月)

検討会に参加してくれていた「手作り大好き」のお二人が世話人として手を挙げてくれました。



実施内容 (参加人数)



「おしゃべりハンドメイドの会」参加者の声

予約でなく来られたのがよかった。
簡単にできるのがうれしい。(60代)

いろいろな折り紙が準備されていて、見ているだけで楽しくなりました。(60代)

時間をかけて来ましたがとても楽しい2時間でした。次回も参加したいと思います。(70代)

おちついて過ごせて好きな場所です。自然光が入ってきて、キレイです。(30代)

出来上がった小箱の中に「何か」を詰めて、誰かにプレゼントしようかな？(60代)

なぜか大いに楽しいイベントでした。おしゃべりしながら手を動かす。これがよかったですね！
(70代、2人で参加)

今回で2回目ですが何を作るのかワクワクしながら参加させていただいています。(70代)

月に一回、楽しみにしています。(60代)



関連イベント トークサロン

「寄り添う手仕事 ときめく手仕事 ～『暮しの手帖』編集部から」

2016年10月16日（日）フォーラム南太田まつり

特別なことではなく、日々の暮らしの中にある手仕事。その楽しさや一工夫を分かち合うことで、日常が豊かに彩られる。手を動かしながら、口も動かし、心も頭も動かして、人の輪が広がっていく。そんな手仕事と人の関わりの醍醐味をどう伝えたらいいのかと考えていたときに、『暮しの手帖』編集部の皆さんが事業の趣旨にご賛同くださり、トークサロンを開催することができました。

ちょうど、朝の連続ドラマで『暮しの手帖』創刊者をモデルとした番組が人気を博し「ささやかな日常を大切にすること」や「人の暮らしに寄り添う手仕事の楽しさ」にあらためて関心が集まっていた時期でもありました。

当日は、ご多忙な編集者の小林理海子さんを講師に迎え、紙面に登場した素敵な作品の数々や、取材エピソード、小林さん自身も記事にする前に必ず挑戦してみるという手作りの魅力などを伺いました。



おしゃべりハンドメイドの会の世話人の方々が、発売されたばかりの9月25日号で小林さんが手がけた「ダーニング」（靴下などのつくろい）を会場で実演し、参加者の関心を集めていました。



関連イベント

「さくらマルシェ」を開きました

2017年3月29日（水）

当センターのそばを流れる大岡川は桜の名所。3月29日、お花見の時期に合わせて「さくらマルシェ」を開催しました。あいにく、開花時期が遅れましたが、「おしゃべりハンドメイドの会」の世話人と検討会参加者等が「さくら」「春」にちなんだ手づくり品を販売。立ち寄った方たちとの交流の場となりました。



座談会 (2017年2月22日(水) フォーラム南太田にて)

「おしゃべりハンドメイドの会」(半年間6回)を振り返って

2016年9月から月に一度ずつ試行してきた会がどのような場であったか、2回の検討会に出席し、引き続き場の世話人を務めてくださった2名の方とともに振り返る座談会を行いました。

【参加者】

司会 ● 為崎 緑 (アドバイザー、中小企業診断士)

世話人 ● 菊地 碓子 (港南区、70代)

● 本多 睦子 (南区、70代)

男女共同参画センター横浜南 職員

● 小園 弥生 (男女共同参画センター横浜南 管理事業課長)

● 小田 美子 (同 管理事業課職員)

● 菱 知子 (同 管理事業課職員)



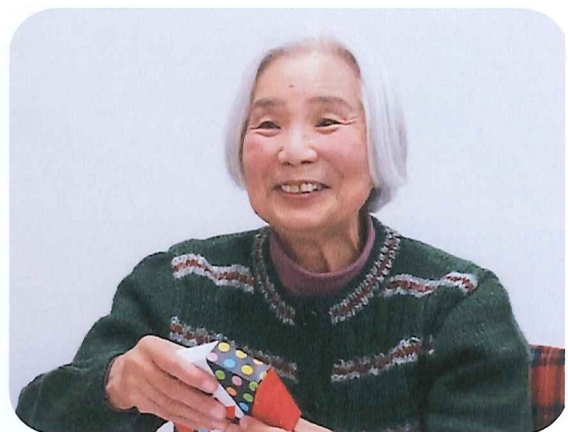
1. 世話人となって

参加者の喜ぶ笑顔から力をもらう

為崎 ● 検討会に参加されて、始まったこの場に期待していたのはどんなことだったのでしょうか？感じられたこともお話しください。

本多 ● このような場が“シニア女性の生きがい”になるのではとフォーラム職員の方から説明を聞いて、すごくいいことだなと思ったんです。受け身ではなくて、なにかできる。でも私が初めに参加した動機は、手仕事が好きで参加して教えていただくこうという考えでしたので、まさかこうして世話人になるなんて思ってもみませんでした。

菊地 ● 「フォーラム南太田マルシェ」のチラシを見て、手作り品をためたものがあつたのでマルシェに出店してみたら売れたんです。その場は、ただ出店者同士おしゃべりしながら売ればよく、責任はなかったの。でもこの会で世話人となると、参加してくださる方たちへの責任が



菊地さん

いるなあと思いました。軽い気持ちで引き受けたものの、材料費がかからなくて、みんなが家で使えるもの、作って楽しいものを作りたいと一カ月考えました。本多さんともよく相談しました。

為崎 ● お二人が世話人を続けてくださった原動力は何でしたか？

本多 ● 来てくださった方が喜んで帰っていかれるのがうれしかったです。でき上がった作品を大事に持ち帰るために、わざわざ大きな菓子箱を持ってくる方もいらして。ありがとうと言われるとやりがいを感じます。こんな役目はしたことがなかったので。同時に、準備をちゃんとしておかないと、とも思って。そのためにも毎月事前に世話人で一度集まって準備作業をしました。私自身もいろいろ教えていただき、一緒に楽しめました。やはり世話人も「楽しいと感じないと」思うんです。

菊地 ● 身の上話もできる良さ、ですかね。「おしゃべりハンドメイドの会」という名前の通りです。一回一回乗り切ってきたという感じですけど。私はお勤めもしたことがなくて、主婦ですと好きでやってきたことが役に立ったかなという満足感。一人暮らしなので、ほんとに楽しませていただきました。

為崎 ● ご自身が感じる変化はありますか？

菊地 ● 最初は手ほどきに一杯いっぱい話をする事もできなかったんですが、最近やっと少し余裕ができたというか……。帰り際に「来月また来ますね」と言われて「また来てくださいね」って自然に言えるようになりました。これでよかった、と。

2. 参加者の想いはそれぞれ

為崎 ● 年が明けて16人、19人と参加者が増えてきていますが、みなさん何を求めて来られていると感じますか？



為崎アドバイザー

小田 ● 次回開催のPRのために、実際に手作りする物の見本を展示していると「これは何？ 申し込みがいるの？」とよく聞かれるようになりました。

本多 ● 申込制ではないので来られなくなってもいいし、そこが参加しやすいのではないかと思います。

小園 ● 新聞に折り込みチラシを入れた時に、それを見た娘さんから「お母さん、ここに行ってみたら」とすすめられて来たという高齢の方がおられました。地域にはそうやって出かける場が見つからず一人で過ごしている人がたくさんいて、そんな一人暮らしの親御さんを案じているんですね。

菊地 ● 学童保育の指導員をなさっている方も毎回いらしています。子どもに教えられれば、といって。あとは親の介護をなさっている方も、「今日は自分

の空いた時間ができたから」と息抜きに楽しんでい
かれるんですよ。

為崎 ● 一人で来ても、そこに居場所があるって大
事ですよ。回を重ねるうちに、場が和んできたの
ではないでしょうか。初回の際は「これはなんの会
だろう」と遠巻きに見ている方もいらっしゃいまし
たから。

菱 ● 介護の合間にいらした方が「今日は手仕事に
集中できなくてごめんなさい。ショートステイに送
り出してきて気が抜けてしまっ」とおっしゃるん
ですよ。でも、そんなふうにありのままに居られる
のもいいなと思っています。

3. いい空気が流れる、 ふところの深い場になってきた

為崎 ● 一般的な講座や教室などと、ちがう場です
よね？一斉に同じことをやるわけではなく、自分
のペースで参加できる。デイサービスなどの福祉施
設ともまた違う。オープンな場であることも大きい
ですね。

本多 ● 隣同士で教え合って、お茶して帰ってい
かれるんですよ。ほかのところで傾聴の勉強もしたん



本多さん

ですけど、ここでは手を動かしながら話せるの
がいいんじゃないでしょうか。

菊地 ● いい空気が流れているんですよ。自然体
のね。

為崎 ● ふところの深い場になっている。理想的
です。障がいをもつお子さんとお母さんがいら
していましたが、みんながごく当たり前に包み
込んでいますね。

本多 ● あのお母さんには本当に教えていただき
ました。子どもさんへの声のかけ方がすばらし
いんですよ。「〇〇ちゃんにプレゼントするんだ
よね。もうひとつ作ってみる？」なんて言って。
私はもう本人が大変そうに感じたので「お茶に
しても」なんて言ってしまったんですが、お母
さんはちがう。それで完成させて帰られました。
ふところの深い場でありつづけられたらと思い
ます。

小田 ● 検討会に来てくれていた地域ケアプラザ
の職員さんと話をすると「すごくいい場になっ
ていますね」と。それは福祉の支援として用意
された場ともまた違うよさがある、という意味
だと思っています。

小園 ● やはり世話人のお人柄というのは大きい
と感じています。いろんな方を受け入れてくれ
るオープンな感じがとてもよくなって。

為崎 ● 場と人の力ですね。いろんな人がいる楽
しさがあります。私もつい先日の会に参加して
みたときに隣の人に「身の上話も聞いわよ」っ
て言われましてね。親の介護のことやなんかを

話したら「えらいわね。子どもがみんなそうできるわけじゃないわ」ってほめられて。嬉しかったですよ。

菱 ● 私が「黙って手を動かしてるだけじゃなくて、ぜひおしゃべりも楽しんでくださいね。身の上話とか」って言ったんですよ。そうしたら「身の下話は？」って聞かれて。みなさんの中から、想像を超えた何かが出てくるみたいです。

小田 ● 何を作るから来るというのではなくて、場に来ることが先にあるようなんです、聞いてみると。「来月、来るわね。それで・・・何を作るの？」と聞かれる。「まだ決まっていなんですよ～。決まったら見本を展示します」と言っても誰からも文句は出ません。

小園 ● 男女共同参画センターというのは従来目的がある人が来るところで、ちょっと入りづらかったかなと思うんですが、この会はふらっと目的なく来られる。そういうよさがすごくあります。みなさんのおかげで。このような場を継続的にひらくのはこの施設では初めてで、それが大事な点かと思っています。

4. これからについて

為崎 ● 参加者が増えたことによる難しさもありますか。これからどうしていきたいとか、お考えがあればお願いします。

本多 ● あまり責任が重くなると難しいかとも思いますが、しばらく今のような形で続けたいですね。

菊地 ● できればもう1人世話人がいるといいですね。2人では何を作るかのアイデアに限りがあります。世話人2人で、1人はサポートというふうにして3人で回せば。理想としては次の回くらいまで、やることが決まっているとよいのですが。

小田 ● 参加者アンケートで、作る物のアイデアや、世話人の希望についてうかがってみようと思います。

小園 ● 私たち男女共同参画センターには健康講座や相談などさまざまなサポートがあります。この会に参加した方たちにとって、暮らしの向上や安心のお役に立てればと思っています。

為崎 ● 皆様、ありがとうございました。



《座談会のまとめに代えて》



「世話人力」を考えてみました



「来月また来ますね」「また来てくださいね」。

座談会の中で話されているように、みなが居心地良くゆったりとられる空気をかもし出す「世話人の力」は大変なものだと感じています。半年間、毎月継続する中で、この間世話人の方たちとさまざまなことを話し合いながら、力を発揮していただくことができました。参加する皆が対等な関係で、開かれた場における「世話人力」。そのポイントはどんな点にあるのでしょうか。事務局スタッフとして、考えてみました。

- ❁ (手仕事を媒介としたサロンであるため) 手仕事が好きで、くふうして人に伝えたい気持ちをお持ちである
- ❁ 誰にでもできそうな手仕事のプランや材料の準備など当日に至る過程と、当日のその場その場を楽しんでいらっしゃる
- ❁ どんな参加者がみえても、ゆったりとそのまま受け入れてくださる
- ❁ 自分なりにある程度の体力がある

ふりかえると、そのようなことが考えられます。「場」は生き物であり、ライブです。その回ごとの参加者の方々によって空気が作られると言っても過言ではありません。ですから、いろいろなことが起こり得ます。主催者と世話人がお互いにいつでも、小さなことでも相談できる、そんな気持ちや関係をもっていることが大事な点かと思います。

参加者が増えてきたとき、世話人に過度な負担がかからないように、また、サービス提供者とお客様といった仕事の関係にならないように、世話人は固定メンバーではなく、今後さまざまな方に担っていただけるようになることが課題です。

私たち事務局スタッフが気づかない点も含めて、みなさんといっしょに「世話人力」を模索し、多くの世話人の方たちと運営していきたいと思えます。

中小企業診断士 為崎 緑



「共に考え、共に動く」をモットーに、コミュニティビジネスや地域生活に密着した分野の事業、商業等の経営・創業の伴走型（寄り添い型）支援を行っている。

シニア女性の活躍の場の開発に手を貸して欲しいと、お声がけをいただいたのは2016年1月頃のことでした。先進事例の検討を経て、内部会議で想定したのは、手仕事で作品を生み出し、販売の機会も持つという形。ですが、担い手候補の方達との意見交換の場では、「教える・教わるといった相対の関係ではなく、皆が同じ方向を向く仲間として手仕事をしたい」「テーマや目標を設定して、それに向って作品を作るのではなく、作る過程を楽しみたい」という声が多く出されました。さらに、「手仕事をする場は、フォーラム南太田に来館した人の目にとまるオープンなスペースとして、関心を持った人が立ち止まり、ふらっと仲間に加われる環境が良い」とのご意見も頂戴しました。

これらの考えに基づく形で2016年9月から開始された『おしゃべりハンドメイドの会』は、想像をはるかに超え、‘色々な人をふところ深く包み込む場’としての機能が遺憾なく発揮されています。そうした場となった要因を私なりに分析すると、① オープンな場で入りやすく、様子を伺いながら参加することができる（講座や教室のように、テーマだけを見て参加の有無を決定せねばならぬ場と異なる）、② 参加者は手仕事という同じことに取り組むフラットな関係である（講師と受講生という関係や、力の競い合いがない）、③ 1回完結型で参加の自由度が高い（自分のペースに応じて参加できる）、④ 隣り合った初めて会う人同士でも、同じものを作るために手を動かしていると自然に会話ができる、⑤ さり気なく気配りする世話人やフォーラム南太田職員の存在がある（事前準備やきめ細かな気遣いが前面には表れず、参加者に心地よい時間と空間が提供されている）、といったことが挙げられます。私自身も何回か参加したのですが、ゆったりとした時間の中での人とのつながりを、存分に楽しませていただきました。

とは言え、今後の場の維持・継続のための課題が存在することも確かです。現在、縁の下の力持ちになってくださっている世話人や職員の方たちへの依存度の軽減、多額ではないけれど、かかる経費を賄うための資金の確保、手仕事によって生み出すもの（作品）の意味づけなど。介護保険制度が変わる中で、改めて地域における「共助の社会づくり」が求められています。かかる環境下、シニア女性を中心とした地域の方たちが生きがいを持って活躍できる場づくりを目指し、今後も微力ながらお手伝いをしていきたいと考えております。

おわりに～2年目の取組に向けて

「ふところ深い場」がみなさんの力で育ってきたこの半年。私たちは「世話人力」の重要性に着目しました。2017年度は、以下の3点に取り組みたいと考えています。

1 交流サロンとしての「おしゃべりハンドメイドの会」の継続、定着

手仕事とおしゃべりを楽しみながらだれもが安心してゆったりと参加できる場の運営を、シニア女性が担い手となるスタイルで続けます。

2 「世話人力」の発信と広がり

世話人の力、シニア女性の人間力を社会的価値として発信し、理解を広げます。また、特定の世話人に過度な負担がかからないよう、担い手となるメンバーを増やします。

3 シニア女性のソーシャルビジネスのモデル事業検討

場づくり、人の輪づくりに加え、手仕事作品などを男女共同参画の視点を生かしつつ、シニア女性のぬくもりと魅力を伝えるソーシャルビジネスとして発信することを模索します。

この事業には、当事者であるシニア世代の方々の参加はもちろんですが、多世代、地域、はじめ多様な主体のみなさんの応援が大きな力です。今後も、みなさんのお知恵とご支援をお寄せくだされば幸いです。

2017年5月

男女共同参画センター横浜南

「シニア女性が担い手となる交流サロン作り」に向けた事業開発 中間報告書

発行年月 2017年5月

発行者 公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会

イラスト 古閑 あゆみ

事務局 男女共同参画センター横浜南（フォーラム南太田）

〒232-0006

横浜市南区南太田1-7-20

電話：045-714-5911

E-mail：mkoho@women.city.yokohama.jp

<http://www.women.city.yokohama.jp/s/>